

8月の植物

ツチアケビ ラン科ツチアケビ属

別名:ヤマシャクジョウ (山錫杖)

(学名 : *Cyrtosia septentrionalis* (Rchb.f.) Garay)



(撮影 : 山崎工 多良岳)

森林内に生育するラン科植物。ナラタケと共生する腐生植物（菌従属栄養植物）。草丈が高く、大きな真っ赤な果実がつくので、人目を引く植物である。6月下旬に黄褐色の花を咲かせるが、ミモグリバエの食害を受けることも多く、結実まで至らないことがある。今年は食害が少ないようで、各地で赤い実が期待される。果実の形がアケビに似て、直接土から生えているので、ツチアケビと名付けられた。また、果実が修験僧の持つ錫杖（しゃくじょう）に似ていることからヤマシャクジョウとも言われる。日本固有種。

生薬名は「土木通（どつうそう）」。強壮、利尿作用があると言われている。実を乾燥させて、煎じて食後に服用する。



錫杖

(山崎 工)